

# 瀬波こどもふれあい隊(エスキャット S-CAT) 活動開始

ボランティア隊員は登録制です(詳しくは協議会へお問い合わせください)



「子どもたちの見守りを、無理なく、できる範囲で活動しませんか」とボランティア隊員を募集し、いよいよ4月から、隊員の方々に活動をお願いすることとなります。

隊員の方を見かけましたら、「おつかれさまです」、「ありがとうございます」などと声をかけていただければ気持ちよく活動できるのではないのでしょうか。そのことが、あいさつ運動にもつながります。

## 地域に合ったまちづくりに、知恵を出し合っています!



役員会

### 総務企画部会



#### 部会長コメント

総務企画部会では、これまで協議会のサポーターとして、事業全体について企画や調整をするための話し合いを重ねてきました。

25年度も瀬波地域が活気あふれるまちになるよう、これまでの成果と課題を確認しながら、具体策を練っています。

仲間になりませんか

「アラフォー世代の目線で瀬波に新しい風を吹かせたい」、「スマホ世代も興味を示すような情報発信をやってみよう」という個人・グループなど、できる範囲で結構です。一緒に瀬波地域のまちづくりに取り組んでみませんか?

## シリーズ 輝く人 No.2

## 「とんぼ」を追って半世紀

小学校高学年のころ、斎藤教頭先生の影響で昆虫に興味を持つようになりました。以来、中学・高校とも生物部に所属し、勉強もそっちのけで、もっぱら昆虫採集や生態観察をしていました。社会に出てからは、昆虫学者として名高い、胎内市(旧黒川村)の馬場金太郎先生に師事し、郷土の昆虫の採集や分布調査を続けてまいりました。得意分野はトンボなので、都市内のトンボのいそうな場所にはほとんど出向いています。

「日暮れて道遠し」の感はありますが、残された時間を郷土の昆虫の調査に尽くしたいと考えています。

所属学会等: 日本トンボ学会、蜻蛉研究会(大阪)、越佐昆虫同好会、山形昆虫同好会、福島むしの会  
著書: 「文献から見た新潟県のトンボ相」 H13~20 69編  
エッセー(村上新聞掲載): 「越佐蜻蛉漫筆」 H20~継続中 57編 ほか論文等多数執筆  
昆虫関係の仕事: 国交省関係施設(ダム・河川・高速道路) 環境保全アドバイザー



瀬波中町  
佐藤良次さん(81歳)

### 広報編集会議



## 編集後記

今回の特集号はまちづくり推進協議会が支援している平成24年度一年間の瀬波地域内各事業の活発な活動状況の一部を画像で振り返ってご覧いただき、25年度への更なる発展を期待して作成しました。皆さんのご意見をお聞かせいただければ、今後の参考にしたいと思います。

編集委員(小嶋三郎・相馬正喜・小嶋幸一・細野明・村山輝穂・塚田進・斎藤要)

## まちづくり通信

# 瀬波 Vol.2



1年間をふりかえり  
25年度への取り組みにつなげます

せ 世代を超えて な 仲が良く み 魅力と活気あふれるまちをつくろう



### 写真の紹介

瀬波温泉潮太鼓の披露(瀬波地区文化祭にて)

健民少年団活動(鷹ノ巣キャンプ場にて)

地域の茶の間(浜新田)

昔ながらのはさ掛けの米づくりにこだわる農家(羽下ヶ淵地内)



## 住民パワーが 瀬波を元気に



親子オリエンテーリング大会 (5月)



地藏様 (7月)



健康講演会 (9月)



母子キックベース大会 (8月)



瀬波盆踊り大会 (8月)

## この活気が 瀬波をひとつに



瀬波地区一周駅伝大会 (10月)



瀬波地区文化祭 (10月)



百人一首かるた大会 (11月)



左義長 (11月)



百万遍



## 平成24年度の

## 羽下ヶ淵・大平区 桜と茶畑の似合う里づくり

桜植栽地の環境整備や茶ムリ工講習会、毎月の里だよりの発行などを行いました。



茶ムリ工講習会は、当地区の茶畑造成を担っている製茶業者が講師でもあることから大勢の人が参加し、大いに盛り上がりました。

1月に行われた区総会では、改めて同事業の推進を決議し取り組みの推進を確認しました。

これからも「住んでいる人が誇れる、そして大勢の人が訪れる魅力ある集落づくり」を進めていきます。

桜の病気枝の除去や広大な面積の草刈りは重労働ですが、皆さんに親しんでもらえるよう続けていきます。



## 主な支援事業

## 米軍上陸の地 いかり保存事業

The place where U.S Armed Forces was landing Preservation project of the anchor

昭和20年、戦後間もない頃、日本海側で唯一の米軍上陸地となった瀬波。その証として平成10年に海中から引き揚げられた錨があります。

ところが、歴史的遺産とも言えるその錨が、屋外に保管されているため、傷みが激しくなり心配されていました。

協議会による「いかり」調査の様子



そこで、協議会は1年間をかけて、区長会と協力しながら、よりよい保存方法を検討してきましたが、ようやく保存方法や設計が決まり事業が動き出しました。

完成は6月頃を予定しており、完成後は、地域の歴史を見つめながら、アメリカとの友好を深める行事等施設の活用が期待されます。



波 瀬  
証言集 米進駐軍瀬波海岸に上陸